

全国町並みゼミ 2003

「近代建築物の保存とまちづくり」



第26回全国町並みゼミかしはら・今井大会第9分科会が河合源七郎家で行われた。

テーマ：「近代建築物の保存とまちづくり」

分科会担当：河合 正(八木札の辻の町並みを考える会)

午後1時半に、今井まちなみ交流センター華薈(はないらか)を出発し、「和歌山銀行」「JR 畝傍駅」「畝傍高校」などの八木の近代建築物を散策ののち、今井に匹敵する八木札の辻界隈の伝統的町家「河合源七郎家住宅」で近代建築物の保存にかかわるまちづくりについて議論した。

JR 畝傍駅では貴賓室を、八木札の辻では代表的な旅籠建築の西の平田家住宅を見学し、分科会会場では、JR 奈良駅舎の写真展示をした。

■コーディネーター

島田敏夫 独立行政法人奈良文化財研究所

山崎正史 立命館大学

パネラー

貴島光彦 共楽館を考える集い

河合正 八木札の辻の町並みを考える会

今津勤 近畿日本鉄道 OB

黒田睦子 NPO 法人歴町センター大聖寺

■コメンテーター

野田惣八 JR 奈良駅を考える会

■司会

住田尚美 JR 奈良駅を考える会

■要旨

◎近代建築物の住民参加による保存と活用について、

遺産、それは先達が後世に遺そうとの思いを初めから持って創ってはいない。地域文化の向上と振興に貢献しつつ風雪をくぐって来た共楽館。誰から集うともなしに、心から「共楽館を後世に遺したい」との願いを胸に集いは結成された。

◎JR 畝傍駅について皇族が休息に使った貴賓室がありながら、無人駅と化してしまっている JR 畝傍駅に降って湧いたような活用計画。古い町並みの玄関として、また街の活性化のために住民はこの駅舎をどうすればいいのか?そして行政は何をするべきなのか?

◎旧大阪電気軌道株式会社富雄変電所

建築学会にも認められた貴重な近代建築物への都市再開発による取り壊し計画。地区の核としての存在の重要性と価値を訴え、その保存と活用成功した事例です。

◎JR 奈良駅を考える

「奈良に来たなあ」と感じるのは JR 奈良駅を降りたとき……残して当然の話が保存決定までに3年もかかるなんて。